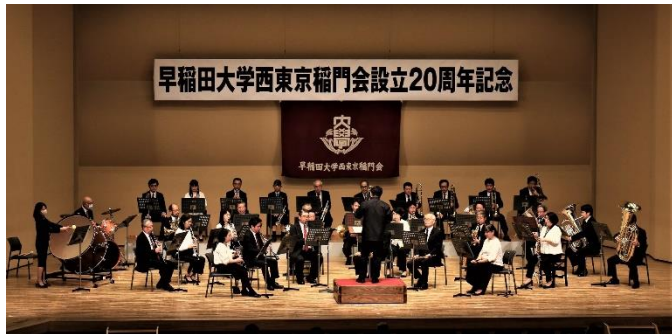


## ◇西東京稲門会設立 20 周年記念演奏会 古関メロディー 満員の観客を魅了

10月9日(土)、こもれびホールメインホールにおいて、20周年記念演奏会を開催した。



記念事業は、コロナ禍で延期に次ぐ延期を重ね今回も開催が危ぶまれたが、9月30日に緊急事態宣言がすべて解除され何とか実現にこぎつけた。但し、観客は定員の50%の300人、しかも聴衆は事前予約者に限定した。当初は予約者が100人に満たずやきもきさせられたが、宣言解除決定後予約が相次ぎ、締め切り日までに、予約者が300人近くに達した。

会場では、入場者の検温と消毒の徹底、名前と連絡用の電話の確認を徹底した。



演奏に先立って緒方会長は「第6波の感染拡大も懸念され、依然として油断のできない状況が続きますが、何とか感染防止策を徹底しつつ開催を迎えることができました」と万感の思いを込めて挨拶した。続いて、池澤隆史西東京市長のご挨拶があり、萬代 晃校友会代表幹事の祝辞が披露されて(代読)、いよいよ演奏が始まった。

演奏会の第1部は“エール”古関裕而特集。



NHK 朝ドラの主題歌「星影のエール」で幕をあけた。演奏するのは、36人編成の早稲田大学応援部 OB・OG 吹奏楽団(稲吹会)。古関裕而作曲の六甲おろし、闘魂

込めて、早稲田マーチ、栄冠は君に輝くなど、馴染みの曲が次々と演奏された。

小森法孝会員と応援部チアリーダー出身でNHK福島局のアナウンサーだった島原(河合)洋子女史の元アナウンサー同士の掛け合いによる軽快な司会が雰囲気大いに盛り上げる。

観客を魅了したのはフィナーレの2曲「長崎の鐘」「オリンピックマーチ」。長崎の鐘の荘厳な演奏、昭和のオリンピック行進曲の堂々たる演奏が感動的だった。

第2部は早稲田大学校歌・応援歌シリーズ。



学ランのリーダーOB3人とチアリーダー2人、MC2人が加わり、さながら早慶戦の応援席の雰囲気になる。

まずは、古関裕而作曲の第1応援歌「紺碧の空」に始まり、ひかる青雲、永遠なるみどり、早慶讃歌、早稲田必勝応援曲メドレー(コンバットマーチなど)と続く。リーダーOBとチアリーダーの演技、観客の手拍子を交え迫力ある演奏で雰囲気は最高潮に達した。

演奏会の最後を飾ったのはもちろん「早稲田大学校歌(都の西北)」。稲門会会員と一般客の中の校友が立ち上がり、声は出さずに右手を振り上げながらハミングで演奏に参加した。



アンコールは、早慶戦に勝ったときにだけ歌える「早稲田の栄光」でフィナーレを迎えた。当会女性スタッフから指揮者(関口彰広氏)に感謝の花束を贈呈し、古賀20周年記念事業実行委員長の閉演の辞で演奏会の幕を閉じた。

観客からは、迫力満点の素晴らしい演奏だった、コロナ過の中で名曲を鑑賞できて楽しかった、学生時代に帰った気分になることができ思い出に残る演奏会だった、などと温かい声を声かけていただいた。



演奏会には、会員、会員の家族・友人、市内在住の学生・校友およびその家族、多くの一般市民のほか、近隣の稲門会（清瀬、国分寺、小平、狛江、調布、練馬、東久留米、東村山、武蔵野）ならびに他大学の校友会（西東京・小平の三田会、明治大学、中央大学、法政大学）からも大勢の方に参加いただき、大いに交流を深めることができた。

20周年記念イベントは、大久保副会長を委員長をとしたイベント委員会と古賀実行委員長、緒方会長、原田幹事長らが中心になって企画している。また今回の演奏会では、25人の会員が、スタッフとして参加し、検温、受付、入場者の案内などを分担した。

今後の記念行事は、新年懇親会、講演会・記念式典、観桜会が予定されている。

佐野 信男(S40・政経)

大久保健仁(S48・商)